

地域医療連携だより

やまびこ

発行日：平成 27 年 10 月 発行：高山赤十字病院 高山市天満町3丁目11番地 TEL 0577-32-1111 発行責任者：地域連携課

第4回 地域連携研修会 報告

平成 27 年 7 月 15 日 (水)

～覚えておきたい漢方10処方～

富山大学和漢医薬学総合研究所

漢方診断学分野 柴原 直利 先生

近年、本邦は超高齢社会を迎え、西洋医学のみでは対応できない疾患や病態が増加し、身体の総合的調和を重視する漢方医学の有用性が再認識されている。漢方薬は「漢方医学的な病態（証）に基づいて適正に使用する」ことが重要であるが、基礎・臨床研究によるエビデンスの蓄積もあり、現在では90%近くの医師が漢方製剤を使用している。

薬価収載の漢方エキス製剤の中で頻用される漢方薬として、葛根湯（感冒、乳腺炎など）、大建中湯（術後腸閉塞など）、抑肝散（認知症など）、六君子湯（機能的胃腸症、抗癌剤使用時の食欲不振など）、牛車腎気丸（抗癌剤誘発末梢神経障害など）、芍薬甘草湯（有痛性筋痙攣など）、麦門冬湯（感冒後咳嗽など）、五苓散（浮腫、脳浮腫、急性胃腸炎など）、補中益気湯（疲労倦怠感、食思不振、慢性閉塞性肺疾患など）、桂枝茯苓丸（月経困難症、月経不順、更年期障害、尋常性瘡癩など）などがあり、西洋医学的疾患・病態を目標に広く用いられている。本講演では、ここに挙げた代表的漢方方剤が使用される疾患や病態を紹介するとともに、適応となる漢方医学的病態について解説した。



目次

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| ● 第4回 地域連携研修会 報告 …………… 1 | ● 研修・講演・勉強会のご案内 …………… 6 |
| ● 第18回 地域連携症例検討会 報告 …………… 2 | ● 平成27年度 第2回地域医療連携検討委員会の報告 …… 6 |
| ● 診療科の紹介 …………… 3.4 | ● 面会時間のお知らせ …………… 6 |
| ● 新任医師の紹介 …………… 5 | ● 編集後記 …………… 6 |
| ● 退任医師 …………… 5 | |

第18回 地域連携症例検討会 報告

平成 27 年 9 月 16 日 (水)

保育園・学校における アナフィラキシー



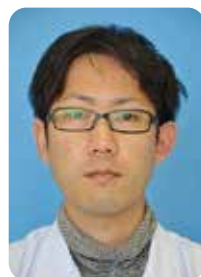
小児科 川尻 美和

食物アレルギーの増加、小学校でのアナフィラキシー死亡事故、食物アレルギー診療の進歩と社会的対応の高まり、アレルギー疾患対策基本法も制定され、現在、保育園・幼稚園・小中学校現場の食物アレルギーに対する意識は非常に高くなっています。

今回、飛騨地域の保育園・小中学校でおこったアナフィラキシー症例を提示し、当地域のアナフィラキシー受診者の現状、学校での食物アレルギー管理状況、緊急薬対応の実情を報告いたしました。その上で、現場でのアナフィラキシー対策として、①起こさないための安全管理→学校生活管理指導表活用の徹底、②起きた時の危機管理→学校での初期対応・緊急薬対応についてのシミュレーション訓練、が大切であると思われました。食物依存性運動誘発アナフィラキシーにおいては学校でいきなりアナフィラキシーショックをおこすことがあります。今後、園医・校医・学校薬剤師の立場で現場の取り組みに医学的助言者として関わる意義は大きいと思われま

す。最後に、アナフィラキシーの視点からではなく、食物アレルギー治療の基本である「安全に食べることを目指した必要最小限の食物除去」を目指して、当科で取り組んでいる経口食物負荷試験について少し紹介させていただきました。

めまいを主訴として受診した 中枢性めまいの 3 例



耳鼻咽喉科 村上 一晃

今回めまいを主訴として当院を受診し中枢性めまいと診断された 3 例について発表させていただきました。いずれも脳幹部の梗塞が原因でした。

症例は64歳女性、59歳男性、90歳男性でしたが、いずれの患者様も初診時にはめまい症状を中心とし、蝸牛症状や歩行障害など伴う方もいましたが構音障害や四肢麻痺など他の脳神経所見異常は認めませんでした。

文献ではめまいを主訴に耳鼻科受診された中で中枢性めまいは全体の7~8%と報告されています。また、中枢性めまい患者で初診時に認めなかった神経学的所見が遅れて出現したものは全体の41%という報告もあります。急性期脳梗塞診断のために施行されることの多い頭部MRI拡散強調画像でも偽陰性率は、発症3時間以内で24%、12時間以内で19%、24時間以内で6~17%とされます。

中枢性めまいを疑う所見として明らかな脳神経所見異常を見落とすことはあまりありません。しかし開眼でも起立が保持できなかったり歩行ができないといった体幹失調は見逃しがちです。またこのような場合、眼振所見などと比べて体幹失調が強いなどの印象を受けることがあります。めまい診察時には中枢性めまい症例でもMRI拡散強調像で偽陰性症例があることを念頭に診察する必要があり、検査所見と症状の強さが乖離する場合はより慎重な経過観察が必要です。

診療科の紹介

その1 眼科

眼科 高井 祐輔

こんにちは。

飛騨の皆さま、高山赤十字病院 眼科部長代理の高井です。

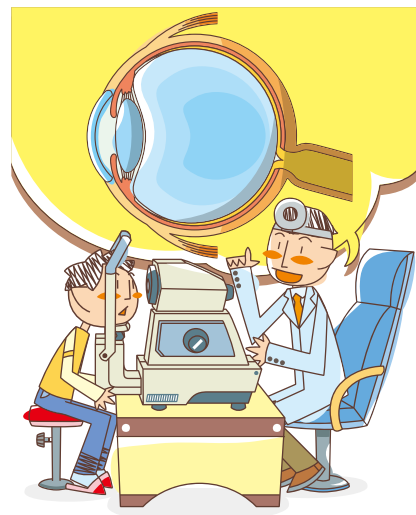
現在高山赤十字病院眼科は、常勤医師2名、非常勤医師1名で飛騨地区眼科医療の拠点病院として担えるよう白内障、網膜硝子体疾患を中心に対応しております。

一般眼科診療に加え、白内障手術、網膜硝子体手術等の外科的治療も行っております。

かつては難治性であった網膜剥離や糖尿病網膜症、外傷による異物混入などの眼内の疾患は、手術手技の進歩に伴い飛騨地区では唯一当院にても治療が可能となりました。

手術に関しては、主に白内障手術および硝子体手術を低侵襲且つ短い時間で行い、術後負担を出来る限り軽減させるような高率の良い手術を心がけております。患者さんにとって安全で、低侵襲な手術により、安定した結果を得る事を心がけております。

医療をするにあたり大切な事は、治療の質は元より、患者医師の信頼関係、心の絆であると思っております。とは言え私共医師も人間です。気付かない所や至らない所もあります。御要望、御指導があれば遠慮なくおっしゃってください。



その2 脳神経外科

脳神経外科 野中 裕康 庄田 健二 加藤 雅康 竹中 勝信

最近の脳梗塞治療の進歩は目覚ましく、脳卒中専門医にとっても最大の関心事の一つです。例えば、心原性脳塞栓症予防に対するNOAC(非ビタミンK阻害経口抗凝固薬)の登場や、脳梗塞急性期に対する脳血管内治療に関しては、毎年のように新薬や器具が開発・認可され、我々の日々の臨床でも治療効果が実感できる程です。

一方で、新しいものに対する警戒感を持つのは私だけでしょうか。そこで私たちは当院におけるNOACの調査を行いました。2012年から2014年(29か月間)までの間に当院で経口抗凝固薬を処方した1088例の、脳梗塞予防効果と副作用である脳出血の発症率を調べたところ、旧薬のワルファリンの年間脳梗塞発症率が1.45%であったのに対し、NOACでは0.85%で、NOACの方に治療効果が期待できそうな結果でした。また抗凝固薬の副作用である頭蓋内出血に関してもワルファリンが0.54%、NOACが0.57%とほとんど差が無さそうでした(*)。今回の調査は実臨床という強いバイアスがあり統計的な評価はできませんが、ワルファリンよりも使いやすいNOACに軍配が上がる結果でした。

また、脳梗塞後の脳血管内治療に対しても積極的に取り組んでいます。最近経験した症例では、意識障害と半身麻痺で発症した脳塞栓症の方に、血管内治療による脳血管の血栓回収を行い(図1、2)、現在では歩行が出来るまでに改善しております。この方は今回の発症前に心房細動があると分かっていたにもかかわらず、担当医にて(警戒感?)バイアスピリンが継続処方されていました。NOACへ変更されていれば、脳梗塞の発症リスク軽減が得られたかもしれません。

脳梗塞はまず予防。それだけではなく、発症後の迅速な対応が重要です。そのために地域連携が欠かせない疾患です。飛騨地域の脳卒中撲滅のためにも、今後とも皆様のご支援とご共働を宜しくお願い申し上げます。

*) 高山赤十字病院紀要 第38号 p33-38 2014、日本脳卒中学会2015(広島)にて報告。



図1

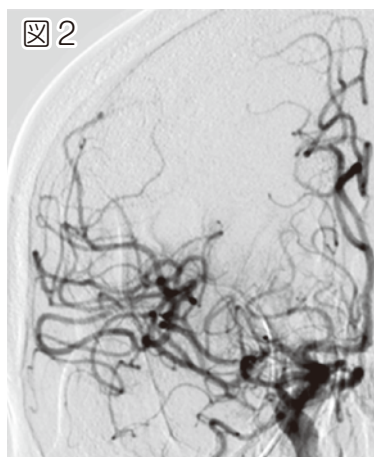


図2

図1 脳血管内治療直前の右内頸動脈撮影。右中大脳動脈起始部で閉塞しています(矢印)。

図2 血管内治療により血栓が回収された直後の、右内頸動脈撮影。右中大脳動脈の再開通が得られています。

新任医師 の 紹介

- ① 診療科・職名
- ② 氏名
- ③ 専門分野
- ④ 専門医・認定医
- ⑤ 診療に対するモットー
& 自己紹介 など



10月に3名の医師が赴任しましたので、ご紹介致します。



- ① 産婦人科 副部長
- ② **桑原 和男** (くわばら かずお)
- ③ 周産期 一般婦人科
- ④ 日本産科婦人科学会専門医 (母体保護法指定医)
- ⑤ 地域にそくした診療を心がけていきます。



- ① 消化器科 副部長
- ② **佐藤 寛之** (さとう ひろゆき)
- ③ 消化器内科、肝臓内科
- ④ 内科認定医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、肝臓専門医
- ⑤ 岐阜県総合医療センターより赴任いたしました。
消化器疾患を中心に、患者様、地域医療のお力になれるよう尽力いたします。



- ① 脳神経外科
- ② **庄田 健二** (しょうだ けんじ)
- ③ 脳神経外科
- ⑤ 9年振りに高山市に戻ってきました。
精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

退任医師

消化器科部長	下地 圭一	9月15日付	産婦人科副部長	成川 希	9月30日付
内科医師	中村 みき	9月30日付	産婦人科医師	宮居 奈央	9月30日付
脳神経外科医師	宮居 雅文	9月30日付	研修医 (歯科)	山崎 志穂	9月30日付

研修・講演・勉強会のご案内

- ・「飛騨地域緩和ケアセミナー」

H27年11月14日(土) 14:00より 高山赤十字病院 本館3階 講堂

- ・「医療介護福祉従事者を対象とした地域医療介護研修会」

H27年12月2日(水) 高山赤十字病院 本館3階 講堂

※詳細は、追ってご案内いたします。

平成27年度 第2回地域医療連携検討委員会の報告

標記委員会を9月30日(水)に開催いたしました。

委員会では紹介率・逆紹介率、地域連携の現状などの業務実績について報告をいたしました。又、今井歯科口腔外科副部長より「高山赤十字病院 歯科口腔外科と地域開業医との連携」の演題でミニレクチャーが行われました。

意見交換では、主に地域包括ケア病棟、地域医療機関等との連携について委員の方からご意見を頂きました。

面会時間変更のお知らせ

平成27年10月1日(木)より、入院患者さんに安全で快適な入院生活をお過ごしいただく為、面会時間を下記のとおり変更させていただきます。ご理解とご協力をお願いします。

【平日】午後3:00～午後8:00

【休日】午後1:00～午後8:00(土・日・祝祭日等)

また、上記時間内であっても、患者さんのご容体・ご都合、または病棟の都合により面会を制限させていただきます場合がございますので、あらかじめご了承ください。なお、救命救急センターの面会時間は従来通りです。

編集後記

春に大学を卒業し4月から退院調整課に配属されました、谷口と申します。ご本人さんやご家族さんが安心して地域に戻られるように、少しでもお力添えできたらと思います。まだ至らぬ点が多々あるかと思いますが、精一杯頑張りますのでよろしく願いいたします。

退院調整課 (MSW) 谷口美紀



日本赤十字社

高山赤十字病院
地域連携課

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地
TEL: 0577-35-1880 FAX: 0577-32-1165
メールアドレス byoshin@takayama.jrc.or.jp
ホームページ <http://www.takayama.jrc.or.jp/>